

すぐに使える

『ユニバーサルデザイン授業』の工夫

～通常学級での実践ヒント集～



ユニバーサルデザイン授業

平成 26 年度 10 月号

京都府丹後教育局

Tel : 0772-22-2175

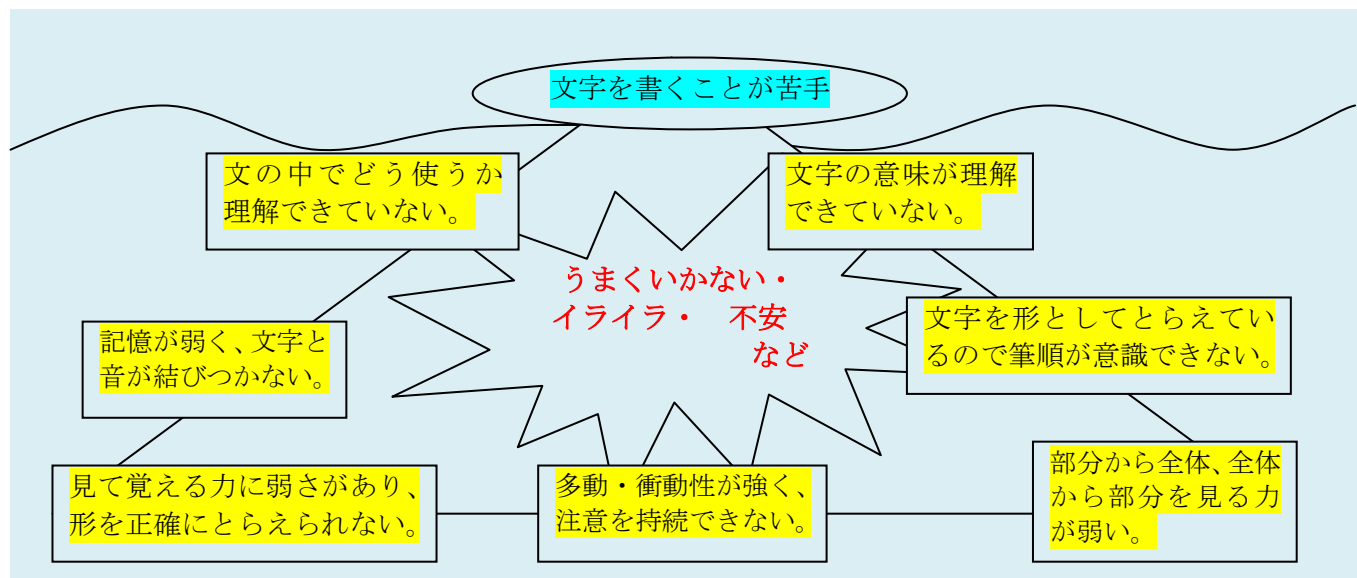
Fax : 0772-22-0479

HP : <http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-k/>

この便りは、丹後特別支援教育研究会の協力を得て作成しております。

今回の『ユニバーサルデザイン授業』の工夫は、書くことが苦手な子どもたちへの支援についてです。「文字を書くのに時間がかかる。」「文字が乱雑で読みづらい。」「習っているはずの漢字が書けない。」など、困難さをかかえている子どもたちへの支援を考えていきます。

文字を書くことをつまずきの背景や要因には、下記のようなものが考えられます。



このような背景や要因があることを知ると、「この子はなまけているわけではない。うまくいかないから困っているのだな…」と想像し、その子どもに応じた支援を計画できます。その一例として、いくつかの方法を紹介します。

<授業全体の工夫として>

- 学習のねらいや重要語句は色チョークあるいは枠付きで目立たせる。
- 黒板を線で分割する。どこを書いているのか分かるようにする。
- 小さいプリントやワークシートに書き込ませ、書く量を減らす。

<漢字を書くことが苦手な子に>

- 蛍光ペンでガイドをつけておき、なぞらせるようにする。
- 漢字の一部を消した文字を提示して、その文字が完成するよう書き足させる。
- 一つの漢字をパーツに分けて、その組み合わせで覚えさせる。
- 漢字の一面ごとに「つー・さっ・とん」などの擬態語を使って声かけをする。



- 透明のクリアファイルにお手本のプリントをはさみ、ホワイトボード用マーカーでなぞらせる。消してまた書かせることができる。

支援方法として、本人が達成感を実感できる支援を選択することが大切です！

裏面では国語、英語の実際の授業場面での工夫や支援について取り上げます。

教科指導支援のヒント ～国語・英語編～

～ユニバーサルデザインの視点で考える～

国語

国語の授業をより分かりやすいものにしていくためには、内容を理解することと併せて、「話し方・聞き方」「書き方」「読み方」を指導することが大切になります。

読むことを例に考えてみます。「読む」にはいくつかの段階があります。1つ目は「文字が読める」という段階です。この段階でつまづいている子どもには、ふりがなを打ってやる、教師のあとについて読む（追い読み）、読み飛ばしがあるようなら指でたどりながら読ませるといった支援が考えられます。2つ目の段階は、「文の意味が分かる」という段階です。様子が読み取れないなど文の意味が分からない子どもには、語句の意味がイメージとして思い描けるように、挿絵や図や写真を添えたり学級の子もたちの読みを聞き合ったりすることで意味をイメージとして思い描けるようにします。3つ目の段階は、文学では「心情の読み取り」、説明文では「つながりを読む」という段階です。登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえたり、問いとまとめの文の関係、段落相互の関係をとらえやすくしたりするために、視覚的に発見できるような教材のしかけをつくることも工夫の例です。キーワードで焦点化したり、色や絵で視覚化したり、学び合いを仕組むことで共有化することで、つまづきがある子どもたちも国語の授業の楽しさが感じられるようになります。

英語

中学校英語の4技能は、「聞く」「話す」「読む」「書く」です。まずは、英語を発音すること、身のまわりの日本語を英語でどう表すのかを知ることが楽しいと感じられることが大切です。中学校においては、「英単語や英文の発音ができ、意味が分かること」が学習に参加できるかどうかの壁になります。

単語を読むことが苦手 → 発音のルールが分かっていると読める単語が増える。

【支援方法】…文字と音の関係

* 初めて見る単語でも、綴りを見ながら発音できる。⇒ 苦手意識をなくす手助けとなります。

a	b	c	d	e	f	g
ア	ブ	ク	ドウ	エ	フ	グ
h	i	j	k	l	m	n
ハ	イ	ジュ	ク	ル	ム	ン
o	p	q	r	s	t	u
オ	プ	ク	ウル	ス	トゥ	ア
v	w	x	y	z		
ヴ	ウィ	クス	イイ	ズ		

《例》 desk ⇒ d(ドウ) + e(エ) + s(ス) + k(ク) ⇒ 「ドウエスク」 ⇒ 「デスク」

★この支援方法を小学校外国語活動に取り入れる場合は、各中学校区で十分に協議して指導する等の配慮が必要です。

単語や表現の意味が覚えられない ⇒ 状況・場面と単語をセットで覚える。

【支援方法】…「絵カード」「絵カルタ」

- * 絵と発音をセットにすると、イメージがしやすくなり、「この絵はこの音」と反射的に頭に入ります。
- * ゲーム感覚で取り組める活動にすることで、楽しく学習できる雰囲気をつくれます。

《例》「絵カード」…絵を見て、その絵があらわす単語を発音する。

⇒ テンポよくリズムカルに英語が出てくるところまで繰り返すと定着に近づきます。

《例》「絵カルタ」…カードゲームの要領で行う。2枚ずつめくり、めくったカードに書かれている英語を発音する。もし2枚のカードが合っていたら、日本語で意味を言ってからカードをもらい、さらに続けてめくることができる。

☆次回 11 月号の内容は「数量的な理解のつまづきについて・教科指導支援のヒント」を予定しています。